



平成24年11月19日

卓話 『オーケストラと指揮者の役割り
～高度の専門家集団とそのリーダー～』

会社役員／音楽プロデューサー

中野 雄 様

中野でございます。今日はオーケストラの指揮者の話です。男のなりたい三大職業は連合艦隊の司令長官とプロ野球の監督とオーケストラの指揮者だそうです。統率するのが高度の専門家の集団で、また衆人環視の中でパフォーマンスしなければならぬ。しかも指揮官の一瞬の判断で人生が変わるというスリリングな状況。男子の本懐ここにありというわけです。

西洋クラシック音楽が世界の音楽のスタンダードになった理由の第一は記譜法です。音符を5線譜に書くことで音の高さと長さを表現し、音楽を客観的に捉えられるようにした。また音階がしっかりしていて、しかも短調と長調があり、和音によって暗い音、明るい音などが出せる。ただカラヤンの有名な言葉があります。人類が発明した情報伝達手段の中で最も不完全なものは楽譜であるというもので、これはちょっと驚きです。楽譜で音の長さや高さや音量を表現しても、どれだけの音量、音色なのかは分からない。実際にクラシック音楽を芸術として鑑賞しようとすると、どうしていいかわからないというのが実態なわけですね。オーケストラの場合は100人の演奏家が全部専門家で、それぞれ意思を持っているわけですから、どうしても全体を統一するリーダーが必要。それが指揮者なのですが、そうなるか歌い回しとか音色の変化、全体のバランスは、指揮者が全部頭の中にイメージしなきゃいけない。同時にそれを身振り手振りで発信するのは、考えてみると大変なことなんです。

そこで指揮者が楽団を統率していくためには

何が必要かということですが、素質としては4つあります。一つは集団統率力。その人が前に立つだけでみんながなんとなく言うことを聞けなかなきゃしょうがないような気になってしまう。これは生来の素質であって中々

訓練で身に付くものではありません。二つ目には猛烈な学習能力。これはレッスンで学び取るというより、誰かと巡り合ったとき、その人からどれだけのものを吸収できるかということ。三つ目は経営能力です。オーケストラを統率するには楽員を食わせなくちゃいけません。ですからカラヤンはレコード業界とビデオ業界に宣伝して彼の演奏を売り込み、構成員の生活を向上させた。もう一つ大事なことは、オーケストラというのは全部赤字で入場料収入では半分ぐらいいか賄えません。それで財界などからお金を引っ張り出せる交渉力と人柄とステイタスが必要です。四つ目は絶対に仕事を辞めないという執念。カラヤンはベルリンフィルへの就任を要請されたとき、終身指揮者の条件を要求しました。実はそこに大きな落とし穴があって、トップに立った瞬間に周りが見えなくなり、最後には辞めざるを得なくなった。本当に怖いのはトップに立ったときです。ある脳科学者によると、幸福のときには危険に対する脳の信号が鈍くなるんだそうです。こころしくなくちゃいけないと思います。

ご静聴ありがとうございました。

